

- (1) 同志社女子大学を志望校・受験校と決めた理由。

高校から競技かるたを始め、そこから古典の世界に興味を持ったので、古典や日本文化を深く学べる同志社女子大学に惹かれました。また、オープンキャンパスに行き、大学の雰囲気や良く、模擬授業を受け、更にこの大学で学びたいと思ったからです。

- (2) 一般入試対策としての受験勉強の進め方について。

〔1学期〕

1学期は部活をしつづけて定期考査や学校の課題をこなすことに必死で本格的な受験勉強はできていませんでした。英語が苦手だったので、英単語はいつも持ち歩き、塾で文法、長文読解の練習をしていました。古文単語は毎週学校で小テストがあったので絶対合格するようにしていました。

〔夏休み〕

1学期よりペースを上げて塾で長文読解をこなしていききました。このとき必ずSDCのチェックをつける、全訳する、わからなかった文法・単語は見直すことを徹底しました。長文は時間のある夏休みに特に力を入れました。日本史は授業プリントと教科書を中心に暗記を進めました。教科書の本文はちろん欄外に書いてある細かい内容まで覚えるようにしました。

〔2学期～入試直前〕

クラスも既に受験モードになっており、休み時間には友達と日本史クイズをしたり、毎日早弁をし、昼休みには自習室で勉強していました。日本史は引き続きインポートを進め、センターの過去問でアウトプットをしていきました。間違えた問題は教科書・単語帳にチェックを入れ、何回も見直せるようにしました。英語も引き続き同じことをしつつ赤本で対策をたてていきました。国語はセンターの勉強と並行して同志社女子大学特有の問題に慣れるために、赤本を解いていました。

- (3) この一年間の受験生活において、受験勉強と高校の行事やクラブ活動の両立、健康面での注意、テレビやスマートフォン等との付き合い方、スランプとその対処法について。

学校行事は高校でしか味わえないものがあると思うので全力で楽しんであげたいと思います。大切なのは楽しむ時は楽しむ、集中する時は集中する、というメリハリをつけることです。私は夜更かしをするとすぐ体調をこわしてしまうので、夜は遅くとも12時半には寝るようになっていました。また、秋から受験が終わるまでマスフはかかすづつけていました。テレビは平日はご飯を食べている時、土日は夜の番組1つまでと決めて見ていました。スランプの時は親に話したり、時間を決めてスマホをさわったりしていました。

- (4) 受験を終えて、受験生のみなさんへのメッセージ。

受験勉強は長いようで終わってみると本当にあっという間でした。だからこそ日々の授業や勉強を大切にしてください。私は公募推薦に落ち、かなり落ち込みましたが、諦めずに勉強を続けたことで報われました。受験生のみなさん、諦めず勉強し、「ここで学びたい」という強い気持ちを持って頑張ってください。応援しています。